

うるおいがなくなる・生理機能が低下する

肌タイプ			健康肌	敏感肌	トラブル肌
			うるおい・透明感がある状態	<ul style="list-style-type: none"> • なんとなく肌の調子が悪い • メークのノリが悪い・肌がつっぱる 	なぜしわ・たるみ・しみ・にきび・くすみ・乾燥・肌荒れが起きる
皮脂膜量	①皮脂分泌	皮脂腺	○	△	×
	②経表皮水分分泌	汗腺	○	△	×
角質水分量	③NMF(結合水)形成	新陳代謝	○	△	×
	④角質細胞間脂質形成	セラミド	○	△	×
		水分	新陳代謝	○	△
			うるおい成分:①②③④が適量ある	うるおい成分:①②③④が不足気味である	うるおい成分:①②③④が不足している
<p>肌自身のうるおい力:</p> <p>うるおう力を支える物質は、全て皮膚内で作られた生体成分。その生体成分の合成・産生に皮膚の生理機能が大きく関わっている。</p>			<p>皮膚の生理機能が低下すると、うるおい成分が少なくなる。素肌美をとり戻すためには短絡的に少なくなったうるおい成分を補給する発想ではなく、如何にして皮膚の生理機能を高めるかが大切です。</p>		
			<p>健康肌 敏感肌 トラブル肌</p>		
海の森			適量使用 (目安:1日1回, 1回3~5プッシュ)	通常使用 (目安:1日3回, 1回5プッシュ)	積極使用 (目安:1日5回程度, 1回6プッシュ)

うるおいが回復する・生理機能が高まる

解説：海の森と肌自身のうるおい力

肌自身のうるおい力が低下してきたから、保湿化粧品で、低下した肌のうるおい力を補完します。実はこの考えには自己矛盾があり、事の重要性が隠されています。本来、肌自身のうるおい力が回復すると、補完商品としての保湿化粧品は必要なくなります。しかし、一向に保湿化粧品の必要性はなくなりません。ということは、肌自身のうるおい力は低下したまま、あるいは更に低下していると言うことで、本来これでは顧客ニーズは満たされていないのですが…。また、肌自身のうるおい力が回復すると保湿化粧品は不要となり、補完商品の役割は終わります。肌が悪いままでもよくなっても、補完商品の役割は終わります。では、どうして多くの人は保湿化粧品を使い続けるのでしょうか。言い換えれば、補完商品としての役割に終りが来ないのでしょうか。それは、保湿感という実体のないものを追い求めるからです。これでは、使ったときだけ保湿感がある、使わなければ肌はボロボロそのような肌状態を、「よし」としているからです。肌自身の保湿力を回復させることもなく、いたずらにモノの持つ保湿感というわけのわからないことに満足する・させる、そんなことがいつまでもまかり通る時代でもないと考えるのですが…

肌タイプ	健康肌 うるおい・透明感がある状態	敏感肌 ● なんとなく肌の調子が悪い ● メークのノリが悪い ● 肌がつっぱる	トラブル肌 なぜしわ・たるみ・しみ・きび・くすみ・乾燥・肌荒れが起きる
<p>肌状態 + 対策</p> <p>ポイント(解説)：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 敏感肌やトラブル肌は基本的にうるおい成分が少なくなったために起きる不具合で、そのうるおい成分が少なくなる原因は、皮脂腺・汗腺・新陳代謝の働きなど皮膚の生理機能の働きが低下したためです。 ● 界面活性剤で長期間にわたり皮脂や NMF や細胞間脂質が溶出すると、特に細胞間脂質が溶出すると、角質水分保持力が低下し皮膚の荒れ状態が増加します。このような皮膚状態で水分(結合水)補給をしても、しなやかで弾力のある肌には戻りません。 ● 結合水とは、クラスターが小さく均一(低分子)である水のこと、肌(タンパク質)への浸透がよく、海の森ではアミノ酸がクラスターの大きい水をクラスターの小さい水に変えています。 ● 低分子：水はいくつかの水分子が結びついた構造をし、水分子の集合体をクラスターといい、低分子とはこのクラスターが小さいということです。 	<p>なぜ：</p> <p>皮脂腺・汗腺・新陳代謝の働きなど皮膚の生理機能が正常に働き、界面活性剤による①②③④の溶出量を上回る量がある。</p> <p>予防ポイント：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 時々、手持ち商品の使用を手控える。 ● 適度に水分(低分子結合水)補給。 ● 適度にリラックス・休息を図る。 	<p>なぜ：</p> <p>環境変化など、ストレスの影響で皮膚の生理機能が低下し、界面活性剤による①②③④の溶出量を下回る量である。</p> <p>対策ポイント：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● できるだけ界面活性剤の含有量・配合量の少ない商品に切替える。定期的に手持ち商品の使用を手控える(①②③④の流出防ぐ)。 ● 定期的に低分子結合水補給。(敏感肌では①②③④が残っている。特に③が残るため、水分：結合水補給で健康肌へ回復できる。) ● 定期的にリラックス・休息を心がける。 	<p>なぜ：</p> <p>ストレスの影響が慢性的で長期間にわたり、皮膚の生理機能が慢性的に低下し、界面活性剤による①②③④の溶出量をかなり下回る量になっている。</p> <p>対策ポイント：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 積極的にできるだけ界面活性剤の含有量・配合量の少ない商品に切替える。できる限り手持ち商品の使用を手控える。 ● 積極的に低分子結合水補給。 ● 積極的にリラックス・休息を取り入れる。(皮脂腺・汗腺の分泌や新陳代謝(血液循環)など、皮膚の生理機能を高めるために、副交感神経の働きを強める)
<p>海の森パック&スプレー(アミノ酸：低分子結合水、精油成分：リラックス作用あり)は、あらゆる肌状態に対応した商品です。肌状態に合わせてご使用ください。やがて予防ケア以外では、海の森そのモノも必要としなくなります。</p>			